

事業報告

〔 自 平成 23 年 4 月 1 日
至 平成 24 年 3 月 31 日 〕

日工アイセグリート株式会社

1. 事業の経過及びその成果

昨年度のわが国経済は、東日本大震災により深刻な打撃を受け、厳しいスタートとなりました。その後、震災復旧・復興を通じてのサプライチェーンの急速な立て直しが図られ、景気は持ち直しに転じましたが、夏以降は急速な円高の進行や欧州政府債務危機の顕在化による世界経済の減速が、景気の持ち直しを緩やかなものにししました。こうした状況に対し、内閣府は、累次の補正予算により、復興需要を中心とする政策効果が景気を下支えし、景気は緩やかな持ち直しが続くにもかかわらず、平成 23 年度の国内総生産の実質成長率は、マイナス 0.1%程度、国民の景気実感に近い名目成長率は、マイナス 1.9%程度と見込んでいます。

当社に關係の深い建設業界におきましては、2012 年 1 月の建設経済研究所の建設投資見通しでは、2011 年度の建設投資は、震災復旧・復興のための政府建設投資は増加し、民間建設投資も回復基調の継続が見込まれ、対前年度比 6.6%増の 43 兆 8400 億円との予測となっています。

このような状況の下、当社は第 3 期以降、経常損失を計上し、第 6 期を迎えるにあたり「再建と事業計画」を策定し、事業環境に対応すべく取組みを推進してまいりました。

ポスト新長期排ガス規制対応コンクリートポンプ車（M30/Z17）の開発を進め、市場投入を図りましたが、残念ながら冷え込む市場の中で Z17 2 台、M30 2 台の受注となりました。また、二次製品コンクリート業界設備としての定置式コンクリート圧送装置等の周辺装置の営業活動を展開しました。その結果、二次製品コンクリート製造会社への定置式コンクリート圧送装置を 3 基受注いたしました。また、日工株式会社への生産全面移管と設計一部移籍を実施し、特に、生産全面移管につきましては、支援体制を強化いたしました。

当社の事業の概況は以下のとおりです。

当事業期間での国内コンクリートポンプ車販売環境は改善せず、誠に遺憾ながら販売実績は、新車 5 台（当期目標 9 台・前期実績 11 台）と目標・前期実績に対して大きく下回り、一部中古車を含む製品販売の売上高は 2 億 14 百万円（前期 6 億 5 百万円、前期比 64.5%減）となりました。また部品販売の売上高は震災復興需要がありましたが、3 億 66 百万円（前期 3 億 84 百万円、前期比 4.7%減）となりました。その結果、当期の売上高合計は 5 億 81 百万円（前期 9 億 97 百万円、前期比 41.7%減）となりました。

損益につきましては、営業損失は、誠に遺憾ながら本体売上高の減少、在庫機の処分による粗利率の低下、前期に市場投入した超高圧コンクリートポンプ車の機能改善費用の発生等により1億2百万円（前期比9百万円減）となりました。経常損失は、1億9百万円（前期比66百万円増）となりましたが、連結税制によるグループ全体の節税額51百万円を受取ったことにより、当期純損失は76百万円（前期比75百万円増）となりました。

2. 対処すべき課題

2012年1月の建設経済研究所の建設投資見通しでは、2012年度の建設投資は、前年度比2.3%増の44兆8300億円との予測です。また、震災復旧・復興予算、その他の全国の防災対策予算の執行による波及効果が、特に冷え込んだコンクリートポンプ車の市場をどこまで回復させるかは不透明ですが、セメント、生コン需要も中期的に底堅く推移することは間違いありません。

この様な環境下、国内業績の回復をはかるために、来期は次のテーマを推進してまいります。

1. ポスト新長期排ガス規制対応コンクリートポンプ車(M30/Z17)の市場投入と、第3の機種開発と市場投入。
2. 定置式コンクリートポンプの拡販。
3. 日工株式会社への生産全面移管と設計の一部移籍のソフト体制確立、支援。
4. 顧客、指定サービス工場との絆を深め、部品拡販を進める。

3. 財産及び損益等の状況

	単位	第四期 (H21.04.01~H22.03.31)	第五期 (H22.04.01~H23.03.31)	第六期 (H23.04.01~H24.03.31)
売上高	千円	917,523	996,884	581,388
経常損失	千円	222,461	43,036	109,618
当期純損失	千円	406,028	1,182	76,417
総資産	千円	1,207,207	1,196,194	1,109,189
純資産	千円	△74,310	△75,493	△151,910
従業員数	人	27人	24人	18人